

.....理事長の コ ラ ム.....

### 保育園での噛みつき、怪我のことについて考える

保育園で毎日友だちと生活し遊んでいる子どもたち、日に日に大きくなってきています。生まれて1、2、3年という短い間に、大人に応答できるくらい成長しています。つくづく子どもは天才！と感嘆しています。赤ちゃんで入園した子たちが6年を経過すると、4月には小学校に行くようになります。ききょう組と話をしながら対等な人間同士になっているのを実感させられます。

今年4月から「こども・家庭庁」が発足します。5年前の保育所保育指針の改定では「子ども主体の保育」が定められましたが、今回は「子ども基本法」が制定されて、4月から施行されることになっています。その内容は一人一人の子どもを受けとめること、保育士の思い通りに育てたいを優先するのではない、一人ひとりが満足する保育を行うことを謳っています。

静岡の保育園では困った子を虐待する事件が起きました。絶対に許されないできごとです。私たちの保育園は子どもが自由に遊べる環境を40年前に、若い職員たちが「噛みつきについて保育を考える」というレポートを全国大会で発表しました。保育の視点として物的環境、人的環境が重要だとまとめ、玩具・絵本、室内の家具、戸棚などどうすべきか考える。保育者は、指示、命令、強制、禁止、否定語を使わないことにしたのです。それが基本理念となり「子どもの人権を尊重する」と謳われているのです。

しかし、子ども同士で噛みつく、引っ掻く、相手を押し倒す、奪い合いをして喧嘩になる、瘤や小さい怪我はどうしても起きます。これを保育者の目の行き届かないせいだと辛く思っていました。よくよく考えると子どもが集団の中で、そうなるのは当たり前で、素晴らしい体験をして育っているのではないか。泣いた、泣かせたことで痛い思いをさせられ、やった子は「あ、悪いことした」と気持ちが凹む。時には大人に諭され、時には叱られた経験が、社会人になるための土台になっているのではないのでしょうか。今まで、加害を受けた子の親御さんに謝っていましたが、これからはやった側の親御さんにもなりゆきを伝えていき、お互いに分かり合い共有し合っていこうと思います。「うちの子が引っ掻いたそうで、ごめんなさい」と言い合える、親同士の関係が大事なのだと思います。如何でしょうか。